

水土里フォーラム カレッジミーティング in 名古屋大学 —岩元農政局長が講演—

平成20年10月1日、名古屋大学農学部講義室において、大学院生命農学研究科食糧生産管理学研究室教授で東海地域農政懇談会会長である竹谷裕之教授の農業政策学の講義の一コマをお借りし、「水土里フォーラム カレッジミーティング in 名古屋大学」を開催し、農学部資源生物科学科3学年生など23名を対象に岩元農政局長が講演しました。

カレッジミーティングとは、大学生に農政局職員が農政について講義やディスカッション等を行い農業施策についての理解浸透を図るもので、2年前から岐阜大学で実施しておりますが、名古屋大学では今回が初めてです。

また当日は、大学後期授業の最初の講義でもあり、竹谷教授から農政局長の講演をもとに現在の農政の概要を理解して、今後の講義に役立たせてもらいたい旨のご挨拶をいただいた後に、本題に入りました。

最初に、農林水産省で食料自給率向上に向けて作成した「食料の未来を確かなものにするために」(DVD)を放映しました。

次いで局長講演に移り、「我が国の農業と食料自給率について」と題してパワーポイントを使用して約50分説明しました。

パワーポイントは、

- I 食料の未来を確かなものにするために（「食料の未来を描く戦略会議」資料）、
- II 東海農業の現状と課題、
- III 農業と農業技術、
- IV 結びに、

の4つの構成からなっております。

その後、学生からの質疑応答に移り、学生からは、農産物高騰に伴う輸入ストップの可能性の有無や農家収入のとらえ方、山間地等の生活の厳しい農家への対応についての質問がなされ、局長が懇切丁寧に応えました。

最後に竹谷教授から本日のカレッジミーティングのご感想を承り、現在は農地や農業者の減少など厳しい時勢の中、どの様に未来を切り開いていくかが私たちに課せられた課題であり、学生の皆様には本日の局長の講義とこれからの

私の講義を通して、こうした課題に果敢に取り組んでいただきたいと締められました。

